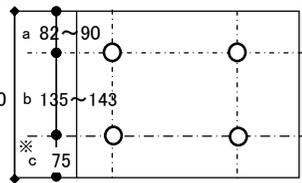


耐震改修工事・施工マニュアル 正誤表、補足事項

頁		誤	正
目次		新規作成の施工図面が追加されましたので、第6章P148以降ページが変更しています。	
13	本文の上から5-7行	【追記】「ただし、10kN用ホールダウンコーナーの短期許容引張耐力以下の引抜力の場合はツイン基礎の必要はありません。」	
15	オの枠内	②部分はずり:はつり痕径40mm、@100mm程度	【追記】②部分はずり:はつり痕径40mm、 <b>深さ2～5mm程度</b> 、@100mm程度
		【追記】※②と③は、はつる部分の単位面積が同じです。	
27	表2.1.11	ツイン基礎の場合/コンクリートの埋め込み深さ/25cm以上	25cmを削除⇒ケミカルアンカーのメーカー仕様に準拠すること
28-29	図2.1.4	【図の修正】新設基礎仕様の図をツイン基礎仕様に変更しました。	
29	図”埋め込み不足”	アンカーボルトの「250mm以上確保する」	新設ケミカルアンカー、メーカー仕様に規定された埋め込み深さを確保
30	図下	【追記】※既存のアンカーボルトも適切な位置に入っているかを確認し、効果が期待できないと思われる場合は新設します。	
41	図2.2.8	【追記】「合板切り欠きの幅/構造用合板耐力壁4周打ちの場合、P1は、合板切り欠き幅が100mm未満、P5は100mm以上とします。」	
42	(エ)本文上から1行目	【追記】「面材 ( <b>構造用合板、石膏ボード</b> )にあらかじめ……」	
43	図2.2.11	【図の追加】構造用合板と釘のめりこんだ状態の断面図を追加しました(右端)。	
45,162	軸組-2	【補足・図2.2.13右に追記】補強枕梁と柱を短冊金物や柱梁接合金物で接合します。	
56	図2.2.19	【追記】「2個の金物の足し合わせ可」	
56	図2.2.20	【追記】「2個の金物の足し合わせ不可」	
71	図2.2.39	【追記】<柱付きのみ筋交い金物の注意点>…内容は”施工マニュアル第2刷”をご確認ください。	
83	エ(ア)b(a)の5-6行目	”溶融亜鉛めっき太め鉄丸釘ZN50”	”めっき鉄丸釘NZ50”
	エ(ア)b(a)の本文6-7行目	これら	「これら」を削除
85	表2.2.19	全面的に文章、扱いに変更があります。(詳細は”施工マニュアル第2刷”のP85でご確認ください。)	

頁		誤	正
110	”筋交・金物等” 質問3の回答	【追記】「ただし、10kN用ホールダウンコーナーの短期許容引張耐力以下の引抜力の場合はこの限りではない。」	
167	面材-1.5	【補足】図は補強壁側手前に筋かいを入れていますが、筋かいを奥に納め、手前に継ぎ材45×90mmが切り欠くことなく入れられれば、それでも結構です。	
112	軸組補強Q1	径サイズはM9以上	・・・径サイズはM12程度、長さは既存の横架材と補強材の径により判断します。(目安として既存横架材の径の1/2～3/4程度の打ち込みが妥当)
148-149	施工図面集目次	【追加図面】以下の図面が追加されました。 基礎1.5/1.6/4.1、面材1.6～1.11	
151(152)	【参考】	図の上部あと施工アンカーの距離 a=75mm	a=82～90 に変更。(ツイン基礎天端の水勾配を考慮すると、かぶり厚さ40mm確保にはa=82以上は必要と思われるため)
		<p>【参考】</p> <p>※既存基礎の高さが300mm程度しかない場合</p>  <p>まずbは100mm以上確保します。cは75mm以上、aはかぶり厚さ40mm以上確保できるように概ね82～90mmとします。</p>	
167(171)	面材-1.5	【追記】「注」図は補強壁側手前に筋交いを入れていますが、筋交いを奥におさめ、手前に継ぎ材45×90mmを切り欠くことなく入れても可能」	
195(205-206)	新工法採用リスト	【追記】いくつか、新工法を追加しました。平成22年3月現在のものです。	

施工マニュアル関連  
ページ(※カッコは第2  
刷でのページ)